

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー(市町・民間等との連携に関する議論)結果

施策の方向(小柱)	健やかで、たくましい心身の育成
議論のテーマ	学校における食育の推進(市町教育委員会や関係団体との連携による安心・安全な学校給食の提供)

1 基本情報

実施日/班名	9月7日 第1班	時間	10:20~12:15
出席者	教育総務課権衡安全教育室、三島市教育委員会事務局 袋井市教育委員会事務局 公益財団法人静岡県学校給食会		

2 レビューの結果(レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された参加者の意見)

(1) 県の事業や取組等に対する見直し・改善策

ア 専門委員

- ・「安心・安全の取組」を強調するが、どれだけ実効性あるものと言えるか。市町教委(又は学校)の責任に帰するだけでは解決できない課題。例えば「検査の要件」、「給食費の公会計化」、「事業者の要件」、「食材調達メカニズム」等について、県教委として抜本的な在り方の見直し、検討を行うべき。
- ・「安心・安全」は納入業者の責任は勿論であるが、県教委、市教委が主体的に検査体制を確認、実施すべきである。
- ・パン工場の指定については、県、市町教委が調達基準を決定し、学校給食会はそこに発注する体制が望ましい。
- ・給食費の徴収は、公会計に移行するよう指導すべき。
- ・入札が独占になっていて問題はあるが、それが公益事業で発注者側に還付されている。それが癒着のようにも見えるし、公正競争を阻害している恐れもある。細部も含めて、仕組みを点検して、大きく改めるべき。
- ・事実独占の状況は、他の事業者との健全な競争環境を築けているとは言えないのではないか。
- ・特に安全についての仕様、基準を行政側としてしっかり持って、契約義務として公平に求めるようにすべき。
- ・事業者(加工業者等)の指定要件等を、一民間団体(=学校給食会)に委ねているという状況は適切ではないのではないか。
- ・県学校給食会等の在り方に2つの大きな課題がある。1点目は、競争原理が働かない(県学校給食会発言「三島市、袋井市意外に見積書は提出していない」)。2点目は、給食費の管理が公会計と私会計の市町での違いがあり、監視機能がほとんどない。改善すべきである。毎年入札する仕組みにする(市町教育委員会の機能)。公会計とし、市町議会のチェック機能を働かす。
- ・「安心・安全」に向けた取組について、県教育委員会、市町教育委員会、学校、学校給食会は、検査や食物アレルギー対応等、二重、三重に重なっている部分があるように見受けられる。役割分担を整理して、責任の所在を明らかにして、深化していただくことを望みます。
- ・給食の会計を透明化するために、給食費納入(納入方法)は、学校ではなく、市町教育委員会へ一本化するよう県として指導すべきである。
- ・食材調達も、昭和20年代、30年代と全く状況が変わった中で、学校給食会にだけ任せていいのか、県全体として、あるいは市町教育委員会との連携の中で、より安全・安心なおいしい給食を提供できる仕組みをどのように作れるのか、議論を踏まえて今一度考え直してほしい。
- ・穀物部分は自然に独占になっている。そうした独占が生じる部分については、適切な調達がなされているか、原価調査などを行うことが必要ではないか。
- ・給食材料の調達について、各市町が一定の条件を示して、業者から提示された価格を比較しながら調達しているかどうかについて、県として把握している必要がある。

- ・学校給食会に理事として入って一緒に検討していく、ということと県として安全を担保する、ということは別のことではないか。県が安全管理の仕様を決めたほうがよい。

イ 県民評価者

- ・学校給食は半独占となっているようですが、独占のメリット、デメリットがある。デメリット部分については、問題点を明確にいただき、対応策を検討するよう指導してほしい。また、学校給食会の事業として、パン工場への種々検査を実施しておられますが、抜き打ちでの検査も必要です。
- ・連携にあたり、安全確認の共有事項、問題発生時の改善マニュアルなどがあるのか。連携と言いつつ、それぞれの団体に任せているパターンが多いのではないかな。
- ・学校給食会が給食に関して独占のように関わっているように思いましたが、巡回調査、衛生管理の指導とかを挙げていても現実、浜松市におけるノロウイルス発生等のニュースがあると、県・市はいったい何をしていたのかと思う。それに対しての市・県の関わり方もどこまで給食会に踏み込んだ指導をしていたのか。一番の安全管理においても、検査料が決算状況の中にどこに入っているのかも答えられないのは、実際どの程度安全に関して問題意識を持っているのか理解し難い。組織として40人以上の人がいて、各々どのように動いているのか。調理現場の巡回などの徹底、連携が必要である。
- ・検査について、納品前検査（生鮮物・加工品（パン））を市町独自にされているとのことだが、県側で最低項目、共通項目、そして各々の基準を設定すべきである。さらに地域特性を反映した項目を市町が設定してもよい。
- ・学校給食会はスケールメリットを強調されているが、各市町が独自に購入している米について、物流コスト（給食会への運搬・給食会から学校への運搬）がカットできればさらに安価にできるのではないかな。
- ・受け入れ側（市町、学校、給食室）の評価を反映させる方法はないか（交通基盤部では点数化され業者に送付、また発注者側（市町含め）は情報共有している）。
- ・入札制度について、学校給食会が見積を提出していないことは、発注者側（市町）に問題がある。（給食会は入札する必要がないから提出しない）
- ・給食費の納入先は市かそれとも学校か。入札制度の確立のためには公会計とすべきである。
- ・検査体制は自主でなく、外部（発注側）に分かる体制に。
- ・入札と評価制度の確立（建設業界では導入済み）。
- ・米に関して、供給業者すべてで検査項目を統一してほしい。
- ・学校給食が安全で安心して子供たちが食べることができるといえるのは、ゆるぎない前提条件であるので、最終的な責任者は県教委ではないでしょうか。学校給食会との連携が有効なのかどうか、保護者が判断する場がありません。情報公開の方法を工夫する必要もあるのではないのでしょうか。学校給食会のHPはあるが、県や市町の教委が原材料の安全検査、納入価格、納入しているところなどを公開することを考えてほしい。
- ・衛生管理等については、保健所の管轄でしっかりすべきではないかな。
- ・義務教育の給食費は、育児手当、児童手当等から差し引いて支給すべき。
- ・県立高校の給食についても御一考いただきたい。成長期であることで、栄養面、また量的にもお弁当を作ることは母親に負担となっている。学生食堂のみでの経営が困難なら、老人向け配食センター、食堂を兼ねて運営するなどの工夫があってもよいのではないかな。
- ・学校給食のあり方は、市の予算（議会）に組入れ、検討がされればよい。
- ・給食の独占に近い学校給食会との関係について、市町、県の責任範囲を見直すべきではないかな。安全に関する部分については、給食会や民間にすべてを任せるのではなく、市町、県においてもチェック責任を負うべきではないかな。
- ・給食の食材調達においては、安全が基本であり、各種検査料について、材料購入費の中で明確にして確実に実施されていることをフォローできる体制が見えるようにする（農薬、添加物等）。
- ・主食（米、パン）についての価格は全県年1回入札して決定し、使用は地産地消するようにしてほしいかな（各市で別々にするのはなく）。
- ・給食の安全・安心における検査（材料）体制を別途考えてはどうかな。食べる側から安心できる体制に

する。

- ・給食費未納家庭の取組について、各校の担任が忙しい中、回収するのが大変と聞きました。各校に任せるのではなく、一応の決まりを県レベルでは作れないのでしょうか。
- ・食材納入のチェック機能について、専門委員の方の意見に賛成（給食費をすべて公会計にして、チェック機能をしっかりと働かせて欲しい）。
- ・1月の食パンを原因としたノロウイルスによる食中毒事故のこともあって、県学校給食会だけでなく、他の事業者の参加も考えるといい。主食は47都道府県ほぼ独占されているとのこと（S31年に公益財団法人に認定）。存在意義は理解できましたが。
- ・安心・安全、食材のしっかりとした検査・おいしさ・価格をトータルして、学校給食会だけでなくもよい。
- ・一般企業では1ヵ月ごと食品検査（大腸菌、黄色ブドウ球菌、サルモネラ菌、一般生菌等）があります。検査料も高額になります。他に製造者の菌検査もあり、安心安全に対し、全力で取り組みます。そこまでの安心・安全は全く感じられません。検査内容、検査結果の報告をホームページでアップしていただきたい。仕入れも1つ1つ見積、相見積をとり、少しでも安くおいしいものを提供していると思っていた。「ゆるい体制」を変えないとPTAは納得いかない。
- ・製品になってからの検査は「決まりごと」はないのでしょうか。すべて公表していただきたい。
- ・人の命を預かる仕事です。より検査を充実し、公表していただきたい。
- ・食の安全について、ノロウイルスの発生（食中毒）にみるように、検査はもっと保健所などとも連携をとるべきだ。
- ・入札は徹底すべき。
- ・検査の仕組みを構築すべきだ。
- ・市町は時代に沿っていない。給食費（受益者負担）は公会計に改めるべき。静岡県はいち早く行ったら如何か。
- ・食物アレルギーは運動誘発性（食べた後に運動で発症）。また皮膚から感作されるなど、近年、考え方が少し変わってきているので、この病態について連携して周知徹底をされたらよい。
- ・食の安全について、生徒、学生が自分の食物がどのルートを取り、口に入るか具体的に教育させたほうがよい。将来、日本の食料事情についても自分で考える力をつけさせる必要がある。
- ・JA、一般商店の検査体制について回答が不明確であった。きちんと検査項目を決め、契約に入れていくべき。そしてそれを公表していくべき。
- ・保護者へも給食、食材、納入先、納入費、検査体制を具体的に書面にて公表すべき。
- ・子供達の食育として、地産地消の食材を使っていることを分かりやすく伝えていくべき。
- ・県の給食供給に関する具体的中身の取組について、もう少し深めた議論を聞いたかったが、連携4の資料で一部理解は出来ました。もっと保護者への発信をして下さい。
- ・県学校給食会に対する県の指導を、コスト面（安全面）を含めより深める必要があるのではないか。
- ・県の予算で、学校給食に対して補助金等があってもいいのでは（一部保護者で支払いが困難な方もいる可能性がある）。子育て支援的な考えはあるか。
- ・食育の活動として、自校での給食提供をしている学校が少なくなっている。昔は作っているときの音やにおいを身近に感じる事が出来たし、作っているところを見ることも簡単に出来ていた。今は集合型の給食センターの調理が多くなり、それらが出来なくなってしまったことはとても残念。自分たちのために作ってくれている人、栄養管理をしてくれている人など、携わってくれている人々の顔が見える関係は食育の中でとても大切なことです。学校のスケジュールも厳しい中で大変だとは思いますが、自校での調理をしていない場合は、給食センターの見学を是非とも必修にしていきたい。保護者対象の見学会、試食会は行われているが、我が子は一度も見学することなく、どうやって給食が提供されたのかを知ることもなく卒業してしまったことは取り戻せない事実。改善されることを願います。
- ・県や学校給食会と市の教育委員会とのやり方（納入、入札）に差があり、とてもまちまちすぎる。県や学校給食会が指揮を執って取りまとめるべきではないか。
- ・学校給食の献立表を本などにして、一般の方に配るなど、仕事が見えるようにしたらどうか。
- ・関係団体との連携について、資料では学校給食会のみが実質の「関係団体」として扱われているが、

他（JA・スーパー等）から供給される品への学校給食会の検査項目の適用を図り、全体の安全レベルUPを図ってほしい。

- ・食材の検査について、放射能測定、微生物・理化学検査は、保健所等の他の適切な専門部署があるのではないか。
- ・連携による安心安全の提供と異なるが「学校における食に関する指導状況が100%にならない理由、議論・検討要」「各個人のアレルギー情報扱い」「緊急時対応の校内研修の実施状況」にも、今後は着目してほしい。
- ・学校給食会の独占状態のようなので、「人的交流」状況を継続的にチェックしてほしい。
- ・学校給食費の納付は県下の免除、減免の基準（標準）づくりなど、未納者対策を整備してはどうか。
- ・保護者の声を聞く機会を増やしてもいいのではないか。
- ・学校給食会は、やはり独占法人のようなので、小村専門委員の言うようにチェックを入れるべき。独占はいろいろな努力が足りなくなる。会計も当然公費にすべき。
- ・環境整備についても行政の役割であるので、給食提供者側からも行政側に提案し、より良い改善を求めていくシステムも考えていただきたい。
- ・現在、具体的に地場産品を給食でどの程度取り入れているのか。もし取り入れている場合は、何か地場産品を取入れるために、生産者との意見交換会の場を設けてはどうか。児童、生徒に、地場の食品の生産について、どのくらい作られているか、現場での見学、生産者との意見交換等、地場産品の理解を高める。（給食だけでなく自宅でも）
- ・給食の献立について、栄養面はさることながら、大事なことは生徒がおいしく楽しく食べられるかどうかで、献立作成委員会に父母の参加を増やしてほしい。
- ・市町や民間との連携を進める上での課題について、ここで言う民間は大手だけですか。個人で無農薬などのこだわりを持って作っている人から、月1回とか買うことはできないか。可能かは分からないが、その農家が講師になって「食育の授業」とかをやっても面白いのではないか。
- ・「安心、安全」は当たり前である。どういう手順で何が行われているのか、把握してほしい。
- ・学校給食の仕組みについては、調書を見て初めて知ったので、少しずつでも保護者を主として発信していったほうがよい。
- ・安全・安心とは言っても、学校給食会に検査が委ねられすぎている。検査の点では、学校給食会がふさわしいかもしれないけれども、市場原理があまり働いていないので、より幅広い視野で入札をしたほうがよい。県での検査が少なすぎるので、もっとやってもらいたい。
- ・検査機能に関してははっきりとした基準と規則がないという印象を受けました。市町村に委ねるというのでは、県内全ての子どもに同じように安心・安全な給食を供給するというにはならないのではないか。県教育委員会で基準を出したり、県学校給食会が提供する食材においては給食会が検査したりするという仕組みが必要である。
- ・保護者からの給食費納入の方法が公会計と私会計の2つに分かれています。2つに分けるよりも、公会計の1つに納入方法を統一したほうが市町の教育委員会も把握しやすいし、指導しやすいのではないか。
- ・専門委員の質疑応答であった「独占状態でないか。」「毎年原価調査しているのか。」という点で、毎年はしていないということなので、毎年調査することと、それに掛かる経費を比べて、調査を前向きに行なってほしい。
- ・原発事故があり、この議論では検査体制に関心があった。この検査をやっているという資料があったが、この検査はここが責任を持って行なっていますよという資料がほしかった。また、その検査の詳細と産地の情報は、保護者に積極的に提供されていたのか疑問が残った。HP公開は受身な情報提供かと思うので、改善を願いたい。
- ・食材供給業者は何年単位で選別されるのか。変える案はあるのか疑問である。保護者への認知も薄いということで、視野に入れた供給が必要なのではないか。
- ・給食は、子どもたちだけでなく、親の方々にも安心を届けなくてははいけません。そのための細菌検査等の実施情報を発信し、保護者の方々にも充分分かるような伝え方が必要である。
- ・「古い制度のままこれまでずっと運用されてきた。」というのが率直な感想である。入札がされてい

な

い、というのにも驚いた。評価や検査体制は、県で一定のものを作れば市町もついてくると思うので、そのようにお願いしたい。

- ・公会計と私会計については、公会計の方が指導など管理をしやすい。

(2)その他の意見

ア 専門委員

- ・学校給食会は、公益財団法人としてコストだけでなく、安心・安全、食育等に関し、役割発揮と県民への情報提供、社会貢献に更に努力すべきである。
- ・県民にとっての一番不利益は、選択肢がないことでしょう。
- ・学校給食会は、納入業者としてではなく、公益的なミッションの追求を担ってほしいです。納入業者としているのなら、民間の競争に並ぶことが当然です。民業圧迫のように感じられる行為は、県民の誤解を招くでしょう。
- ・納入は民間に任せることが明解になるでしょうね。チェック機関、啓発機関（県、市町から委託されるなど）になってはいかがですか。
- ・保護者は食に対する心配が高まっている。保護者に対して、学校給食会からも給食について情報発信をすべきである。
- ・学校給食会は、いい給食を作るという公益財団法人としての本来の役割にシフトしてほしい。

イ 県民評価者

- ・主食メインの話でしたが、野菜などの農薬使用検査などの実施はあるのか（野菜のほうが小ロットになるので管理が難しいと感じたから）。
- ・地産地消の野菜を使う場合、各農家から取りまとめて出荷される場合があると思いますが、その場合の安全確認はどうなっているのか。
- ・県学校給食会を通す納入について、（米食に限らず）J Aが学校給食会・直接市町に応札する価格が同じことに不自然さを感じる。J Aが落札したいのであれば学校給食会より安く応札するのではないかな。何か事情があるのではないかな。
- ・大変良い意見を聞き勉強になりました。
- ・学校給食について、お金の流れが市町によっても違い、複雑すぎて正直、最善な方法がよく分かりませんでした。
- ・保護者による「給食の安全を考える会」みたいなものがあるために、より厳しい材料の検査があると思うが、実際、家庭に戻ったときに、スナック菓子や外食（特にジャンクフード）等では、輸入品や不衛生な場所で調理されたものを知らずに食べたりしているのが事実。一般的な保護者からすれば、安くて安心な給食を提供してもらえただけですごくありがたいものです。細かなことはよく分かりませんでした。私は県学校給食会さんに感謝です。
- ・不透明なところがあるのはよくないと思うが、新しい仕組みを作るには新しい事業を作らねばならないですよ。
- ・学校における食育の推進というテーマではなく、県学校給食会の存在意義に関する議論のように感じました。いわゆる天下り団体、業者癒着、談合の温床になっているということなのか。もっと問題点を明確にすべきではないかと思いました。県としては切りたくても切れないということでしょうか。
- ・「県学校給食会」というネーミングでは、県の事業と誤解してしまうのでよくない。収益の赤字部分はどのように解消しているのでしょうか。
- ・米は年1回新米のとき検査している。良い方法です。
- ・J Aの納入は、生産農家から生産履歴を出させている。例えば農薬、肥料、消毒薬を書面にて提出している。良い方法です。
- ・毎年、土壌調査とかしていることもあり、生産者も研究して良いものづくりが出来ることは良い。
- ・食物アレルギー問題等々、これからも子供達のため調理をしっかりとしてほしい。
- ・県学校給食会の充実、価格と検査についてのリーダーへ。

- ・給食室や給食食器、いろいろな面で考えられていることが分かりました。自分の子供達が中学卒業して10年以上経っています。子供達がお世話になっているときに、本日教えていただいた事を知っていたかったです。レビューの説明で学校給食の仕組みがよく理解できました。
- ・給食で栄養バランスの取れた食事ができ、好き嫌いも減ってきました。大変ありがたいです。しかし、本日参加させていただき、安心安全面、仕入れの問題は不安になりました。
- ・栄養士は忙しいからシステムを導入とおっしゃいましたが、教職員は皆忙しいです。栄養士だけが忙しいわけではありません。県内にどれだけの栄養士がいますか。
- ・一般的にJAさんで業務用米を購入するのは「高い」と聞きます。使う量は違っても、価格は近づいてほしいです。
- ・学校給食会という組織の見直しが必要ではないか。
- ・受益者負担の出来ない（経済的に困難な方）は如何にしているのか知りたかったが、少し分かった。
- ・給食費の流れについて、私会計であることを初めて知りました。
- ・熊谷コーディネーターの分かりやすい説明は大変参考になった。
- ・「学校における食育の推進」が議論のテーマであるが、実際には「学校給食会」をどうにかしたいがための話し合いでだまされたように思う。このテーマであるなら、児童、生徒を中心に（スタートに）議論すべきであり、「学校給食会」を迫りたいのであればテーマを変えるべきである。県民評価者として巻き込まれてしまうのは正直、不愉快である。
- ・内容が担当者以外よく分からない部分があった。
- ・県で行っているところと市町で行っているところがある中で、議論が一律でないのが聞いていて分かりにくかった。米の納入に関しての入札について意見が出ていたが、相互の信頼関係で成り立っているのも大きいのではないか。入札制度となり“より安く”に重点を置かれてしまい、質が落ちてしまうのではないかという不安もある。
- ・自分たちの毎日の仕事として業務に関わっていると、当たり前になってしまい、疑問など持たず気付かずに行なっていることは多くある。専門委員による質問等で改めての気付きもあると思うので、事業レビューは充実してよかったです。
- ・学校給食会がどんな役割をしているのか。透明性がないように感じる。
- ・学校給食の仕組みの表に、学校給食会を落とし込んだほうがよい。
- ・学校給食会は、供給者としての立場、食育を推進する立場の両面を持っている。そのあり方について、いかなるものでしょう。
- ・学校給食について、不透明な部分があることが分かった。
- ・最初の事業説明は必要ない。調書に書いてある事は読めば解かるのだから、時間のムダ。
- ・学校給食については全くの無知でしたが、今回の議論を聞いて、食材の購入についても種々の問題点があり、それらの点を解決しながら学校給食を子供達に与えていることを知りました。そして安全対策に重点を置いて常に考えていることも知りました。
- ・今回の連携では、より安く給食を提供出来る方法があるか、つまり競争原理に重きをおいているようだが、我々市民から見ればむしろ当たり前のことである。
- ・財団法人化が悪いわけではないので。
- ・今回の資料内容は十分よくまとまっているし、しっかりと事業を進めていることは十分理解出来る。原価とか価格競争とかの議論はむしろ当たり前のことで、資料内容を忠実に全うしていただければ、何も問題ない。給食に議論を集中させるのではなく、「食育」に軸を置くことが前提であろう。
- ・「おいしい給食を食べられる」ことが、学校が楽しいにつながるのではないですか。
- ・事業の内容によっては、独占や競争原理などのことに論点を置かなくてもよいものがある。受託した業者は、倫理性を求められるものであっていい。
- ・安全、安心な給食の提供、各種検査、栄養管理を行っているが、その検査結果はどうか。事例の共有化はされているか。検査をどこで誰が、最終の安全提供はどこでするのか。
- ・地産地消の推進について、物資選定委員会、地場製品の活用とあるが、生産者（JA等）に参加してもらった方がよいのではないか。
- ・施策の方向（小柱）で、食育の推進、“生きる力”を養うとあるが、具体的にどういう考えで何を進

めようとしているか。

- ・保護者が求める「安心、安全」は、どういうものなのか気になった。
- ・いろいろな人の意見を聞くことは、とても大切である。
- ・もっと若い人がいてもいい。(評価者に学生がいるのはとてもよいことです。)
- ・専門用語が多く難しかった。
- ・政策が少し身近に感じられた。(今迄は、自分とかけ離れているものと思っていた。)
- ・給食をどこから納入しているかについて、納入先が JA、一般商店等又は県学校給食会のどちらかを単価と地産地消で選んでいることは、子どもたちに安心・安全な給食を届ける上で良い選定方法です。また、その契約・指導を教育委員会が行っていて、安心・安全を守っているのは良い連携である。
- ・私たちが小中学校において供給されていた給食が複数の検査を通過していることや、アレルギー対応指導が徹底しているなど、安全・安心へ向けた取組がされていることがよく分かった。また、一般商店等と食材供給の契約を結ぶ際に、単価よりも地場産業を重視されている点が非常に良い。
- ・学校給食栄養管理システムの「カロリーメイク」のソフトの無償貸与は、忙しい栄養士が短時間に手軽にカロリー計算ができるなど、少しでも栄養士の負担を小さくする工夫が素晴らしい。そこを平成17年度から施行されている「食育」へ力を入れる時間に充てられるため、今後ますます食育の啓発につながると期待できる。
- ・給食の残食率も小学校約1%、中学校約8%と、低いということで、生徒の皆さんが美味しく給食を召し上がられていることが分かり、それとともに給食に対する不安(放射能やアレルギー性など)がないことや、食事をする環境が悪くないということも受け取れた。最近、ノロウイルスが問題となり、さらに厳しい体制作りで衛生面などを徹底しているということで、保護者の方々からの信頼などを取り戻すことが大切である。
- ・資料だけでは具体的なイメージが分からなかったが、専門委員の質疑応答でイメージが沸き、何が疑問なのか分かるようになってきたので、長い時間を取ってほしい。
- ・“独占”という話が多く出ていたが、確かに全て(とは言われぬにしろ)が固定されているように感じた。意識を向ける先が偏っているのではないか。予算を下げる(抑える)ことに意識が向いている印象を受けた。
- ・県内の大学に通っている者ですが、友人が小学校(中学校だったかも)の給食が美味しくなかったと話していたことを聞いたことがある。数年前のことなので、現在は改善されているかもしれないが、内容を見るべきかと。「他団体の関与」ということなので、栄養管理師団体のような団体の関与は含まないのか。
- ・「育ててもよし」の静岡県において、学校給食の安心・安全は不可欠である。今回の議論を聴いて、学校給食の安全はもちろん、その安心な価格付けに至るまで、熱心に検討されており、この理解が広まればよいと思った。また、その結果「学校における食育の推進」につながれば大変価値のある取組だと言える。
- ・原材料の安全性だけが、安心安全ではない。おいしい給食、栄養価の問題、給食費の徴収。
- ・衣食足りて礼節を知る。「自分の口に入るもの」を生徒・学生に具体的に知らせることは必要。県学校給食会の広報活動をすべき。
- ・県学校給食会の仕事(存在)は初めて知った。事業内容を公表すべき。
- ・理事など非常勤がこんなに必要か。減らしてもよいのでは。
- ・県学校給食会の検査対象を強化していく。検査の詳細を公表していくべき。
- ・安全で安心を第一に考えるのなら、納品前の食品(食材)検品チェックシート(チェック体制を標準化すること)を、学校給食会主導で作ることは出来ないのか。
- ・ある小学校1年生があまり給食を食べないので、担当教諭が聞いたところ「先生、トイレのにおいがすごくて給食食べたくない」ということだった。給食提供する仕組みや関係者の努力は充分評価出来るし、今後も努力をお願いしたい。給食を食べる場所の環境に、しっかり目を配って、より効果的な給食提供をお願いしたい。提供者は行政に対して調理場の改善を申し入れることはあると思うが、トイレ等の環境整備にも踏み込んでいくことが重要である。具体的に問題のあった学校は、早急な改善を実施するように手配が始まった。しかし、改善をするための行政側の予算がないので、な

かなか実施出来ないということで、当該学校のPTAの協力を得られないかということまで考えていた。私達は、例えば外食をする場合、味や材料で選択していない。店の雰囲気や環境も重要な選択肢です。子供が食べる場所をしっかりと整備して、安心、安全、楽しく食事をするように願いたい。

- ・数値目標と施策の方向との関連が理解しにくい。
- ・もっと静岡のもの（お茶とか）を取り入れてほしい。
- ・パンについて、学校給食用小麦とは市販食パンとどう違うのか。その必要はあるのか。
- ・学校が避難所として使われている光景を見るにつけ、給食室がないことへの不安を感じます。
- ・不勉強で大変申し訳ないですが、材料（原料）を県内産にこだわる理由が分からない。例えば、小学生がこの料理の原料が自分の市の生産物だと言ったところで、何の意味が教育上あるのか。別に安心・安全を理由に県内産でなければならない理由はない。つまり、食育を理由に単に県内農家を守りたいだけではないかという疑念があり、教育としての食事が別の意味合いになってしまっている側面が垣間見える。